



# 相馬市の磯部水産加工施設が着工 伝統の和風意匠を採用

設計＝関・空間設計 施工＝日本・草野JV

あいさつする立谷市長



玉へんぎをかける渡邊社長



出田支店長



どの要望を受けて、市の施設として共同水産加工流通施設を整備。完成後は、市が漁協と事業者でつくる組織に無償で貸与する予定だ。

規模は、本体がRC+木造2階建て、付属棟はS造平屋建て2棟で総延べ3571平方メートル。建物は、衛生管理を徹底するため、それぞれ前室を持つ分棟型とした。加工や梱包のほか、直販所なども備える。外観は相馬市の伝統を取り入れた和風のデザインを採用している。

この日の神事には、立谷秀清市長、渡邊宏関・空間設計社長、出田末喜日本建設専務取締役仙台支店長、草野清貴草野建設社長ら関係者約50人が出席。代表者が神前に玉くしをささげ、工事期間中の無事故・無災害と早期完成を祈念した。

津波被害を受けた福島県相馬市の水産業復興の要となる磯部水産加工施設建設工事が24日、日本建設・草野建設JVの施工で本格着工した。設計は関・空間設計が担当。2016年1月の完成を目指す。

同市の観光名所・松川浦の南側にある磯部漁港では、コウナゴやシラス、ツブ貝、ホッキ貝などが水揚げされていたが、震災で仲買企業すべての施設が全壊するなど大きな被害を受けた。相馬双葉漁業協同組合や、水産加工業者な

席上、あいさつに立った立谷市長は「磯部地区の復興のシンボルとなる建物であり、完成後は施設を十二分に活用し、地方創生に貢献する事業を展開してほしい」と語った。

戸田雅之作業所長（日本建設）の話「3種類の構造をつなぐ部分の精度管理がポイントになる。現場周辺で初めての復興の建物となるだけに、安全に工事を進め、高品質の建物を引き渡したい」



戸田雅之作業所長（日本建設）